

序

当研究所では、平成10年度も恒例の事業となっている教育論文の刊行を企画し、論説の部、実践記録の部に分けて原稿を募集しましたところ、論説の部に5編、実践記録の部に7編の応募をいただきました。

論説の部では、本市の5人の英語指導助手がそれぞれの立場から本市の英語教育にかかわる感想、あるいは提案等について述べております。関係者に是非ご一読いただき、更に議論を深めていただけたら幸いです。

実践記録の部につきましては、児童のよさや可能性を伸ばすための共感的な評価と一体となった支援の在り方についての実践研究、教師自身の同和問題への認識を深め、同和問題について語り合える関係づくりを目指した保護者啓発についての取り組み、学級担任とコンピューター指導教員の連携のもとに、コンピューターの活用により一人一人の表現力、情報活用能力の育成を目指した実践、クロスカリキュラムにより環境教育を指向した農園活動を展開し、生きる力の育成を目指した実践、保護者との連携を図りつつ全校体制による教育相談活動を展開された実践、チーム・ティーチング担当教師の在り方を模索しつつ「個に応じた指導」を目指した実践、インターネットによる生徒の作品の展示とその評価、その他学習指導へのインターネット活用の具体的な提案など、いずれも今日的な教育課題に真剣に真剣に取り組まれた力作であります。

以上、多くの教育関係者の方々から日頃の教育的思索や研究実践の成果を発表していただきました。これらの論文は、読者のみなさんの教育観を深める大きな契機となるに違いありません。したがって、ここに示された貴重な教育論文を、今後とも各教育現場における日々の実践に十分生かされることを期待いたします。

なお、今年度も教育論文集第1集から昨年度までに掲載された論文のテーマ及び執筆者一覧を付記しましたので、今後の研究の一助としてご活用いただけたら幸いです。

終わりに、論文をお寄せくださった研究者の方々をはじめ、関係者の方々にお礼を申し上げるとともに、みなさまのますますのご活躍を祈念して序といたします。

平成11年3月

足利市立教育研究所長

石 川 博 右